

令和3年度長野県公衆衛生専門学校評価表

長野県公衆衛生専門学校

第1 重点目標

1 中・長期目標

歯科衛生士法に基づく専門的知識や技術を積極的に学び、地域社会に貢献する意識をもつ学生を養成する。	
取組状況	<p>年間を通じた教科課程全般において、歯科衛生士としての専門的知識を教育し、校内・校外実習で知識に基づいた技術修得のための学習・行動目標を立て、段階を追って実習することで、知識と技術を一体化し、より深く理解できるよう図った。</p> <p>特に、臨床実習施設において、学んだ技術を応用するだけでなく、患者に寄り添うことにより患者の訴えに応えることを目的として実習しており、地域の患者が抱える課題を意識し、地域の特色についての理解を深められるよう努めた。</p> <p>こうした講義や実習など様々な機会を通じて、学生自身が生涯をとおして歯科衛生士として働いていくという自覚を持てるよう取り組んだ。</p>
評価	適切

2 今年度の重点目標

現在の歯科医療業界や地域のニーズに対応した人材育成を図る。	
取組状況	<p>歯科医療業界における近年の方向性として、健康寿命の延伸に向けた予防歯科の重要性や、全身の健康づくりに資する口腔機能の維持向上が挙げられており、歯科衛生士の役割が増す中、臨床現場で使用頻度が高い歯科機器や材料について、新たに講義・実習に取り入れるなど、日々進歩する歯科医療界の最新知識等を取り入れるよう努めた。</p> <p>また、信州保健医療総合計画では、地域歯科口腔保健や摂食嚥下機能の維持向上、訪問口腔衛生管理等の専門的な分野に携わる歯科衛生士の確保を掲げており、これに基づき、公衆衛生現場や病院、高齢者施設、訪問歯科診療所に勤務する歯科衛生士を特別講師として迎え、専門分野の知識の普及とともに、県のニーズに対応した人材の育成を図っている。</p>
今後の取組	<p>今後も発展する歯科医療機器や、新たな口腔ケア資材等について学習できる機会を増やす。</p> <p>また、感染症対策や摂食嚥下機能に関する新しい教材を実習・演習に取り入れる。</p>
評価	適切

<p>キャリアデザインを意識した教育を行い卒業生の離職防止に努めると共に、個々の特色を生かした就職活動を支援する。</p>	
取組状況	<p>3年生の前期に、就職対策特別講義の他、卒業後も研鑽を重ね、長期的な視点でキャリアアップ、スキルアップをするための方法や選択肢について特別講義を行い、専門性を極め、生涯に渡って歯科衛生士として働くための人生設計等について教育した。</p> <p>また、新たに労働上のトラブル等での離職を防止するため、職場で必要な労働関係の基礎知識についての特別講義を実施した。</p> <p>併せて、担任による個別進路指導で自分の適性や就業の責務について振り返る場を設けた。</p>
今後の取組	<p>引き続き、就業することの責任と義務について早い時期から動機づけを行い、学生自身が自分の個性を理解し、目的意識をもって卒業までの過程を進めるよう教育を行う。</p> <p>個別面談についても、引き続きの丁寧な指導に励む。</p>
評価	ほぼ適切
<p>理念、目的、育成人材像、特色等を広く広報し、本校の魅力を発信することで学生募集に努める。</p>	
取組状況	<p>令和2年と同様に学校公開を年6回実施した。体験入学と模擬授業では好評だった方法、内容を実施、更に新型コロナ感染拡大防止のための感染対策を万全にすることで、医療系の学校であることを参加者に意識づけし、本学の魅力を発信することに努めた。</p> <p>令和3年度は、新たに当校をPRする動画を作成し、学校歯科医等を通じて、県内すべての高等学校へ提供することで、関係団体と協働した学生募集ができた。</p> <p>また、上伊那地域で高校生等を対象に行われた「理工系の女子大学(校)生・社会人による座談会、交流会」に参加し、学校のPRに努めるとともに、業者主催の進路ガイダンスは、高校訪問とオンラインを含めて18回参加した。</p>
今後の取組	<p>引き続き、学校公開を開催し、当校の教育方針や歯科衛生士という職業の周知を図る。</p> <p>更に当校のホームページを充実させ、また、関係団体との協働によるPRを図る。</p>
評価	ほぼ適切

第2 評価項目

1 教育活動

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
・学校の教育理念、目的、目標を定め、育成する人材像は専門分野の特性を生かしているか。	④ 3 2 1
・教育理念等が学生・保護者等に周知されているか。	4 ③ 2 1
・育成人材像は歯科医療業界のニーズに沿っているか。	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

教育理念等はホームページで公表している。学生及び保護者に対し、講義や後援会を通じてさらなる理念の周知に努める。

③ 特記事項

社会や歯科医療業界のニーズに対応しているか常に意識する。

(2) 学校運営

【運営組織等の機能有効性】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
・教育目標に沿った事業計画が策定されているか。	④ 3 2 1
・運営組織は規則で明確化されているか。また、有効に機能しているか。	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④ 3 2 1
・予算執行が適正になされているか。	④ 3 2 1
・コンプライアンスが実践され、また実践のための体制が図られているか。	④ 3 2 1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

学校関係者の外部委員による運営協議会を設置し、運営に関して客観的に評価している。

令和2年度の協議会では、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、リモートや対面での多様な講義を実施したことや、代替えを含め漏れのない実習ができたことに評価をいただき、引き続き実施した。

今後も学生指導に努めるほか、ホームページ等を活用し学校運営状況の公表を図る。

③ 特記事項

予算執行は、近年の歯科医療業界に即した材料等を導入するとともに、県の規定に則り適切に執行している。また、コンプライアンスについては、県の内部統制基本方針に対応し、当校に保有する情報の適切な管理などに努めている。

【学校案内と学生の確保】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
・学校案内等の各種資料を作成、配布し、広く情報提供を行っているか。	4 ③ 2 1
・学校公開を開催し、本校の魅力をPRしているか。	4 ③ 2 1
・令和3年度の入学定員を確保できたか。	④ 3 2 1

① 課題

歯科衛生士という職業の認知度が低く、歯科衛生士養成校への関心が薄い。

② 今後の改善方策

体験入学で好評を得た内容を充実する、模擬授業の内容を毎年変更し続けて参加いただく方が飽きないような工夫をする、などより参加者が魅力を感じるものへの修正を続ける。

また、令和3年度は関係団体と協働し動画作成したものを県内全高校へ配布しPRしており、引き続きこれら関係団体との連携による学生募集に努める。

③ 特記事項

知ってもらう、見てもらう、体験してもらう、この3つのカテゴリーを計画的に企画、運営し歯科衛生士養成校として発信し、学生確保につないでいく。

【ホームページの充実】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
・本校の魅力を発信するホームページとなっているか。	4 3 ② 1
・受験生や卒業生などへの情報等、必要な情報提供が適切に行われているか。	4 ③ 2 1

① 課題

歯科衛生士らしい写真を掲載し、職業紹介に努めているが、学習状況の具体的発信が少ない。

② 今後の改善方策

令和3年度は、「今日の公専校」を毎月更新し、学校の魅力発信に努めた。今後は、歯科衛生士の特性を活かした、特色ある実習風景等を掲載し、公開しているカリキュラムと講義や実習がどう関わっているのかなど、併せて発信することで、高校生等に入学後の具体的な学習状況や学校生活スタイルをPRする。

③ 特記事項

特になし。

(3) 教育活動

【教育理念に則った教科活動】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
・教育課程は、教育理念、目標等に沿って体系的に策定されているか。	④ 3 2 1
・キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立った科目等が設定されており、関連団体との連携による工夫・改正など内容の見直しが行われているか。	4 ③ 2 1

・授業評価を実施する体制は組織されているか。	4	3	②	1
・教員が先端的な知識・技術等を習得するための研修や指導力育成など、資質向上のための取組が行われているか。	④	3	2	1

① 課題

科目によっては授業評価を実施しているが、学校全体として評価する体制が組織されていない。

② 今後の改善方策

キャリア教育について段階を踏んで教育をしているほか、令和3年度は県機関に依頼し労務関係の特別講義を実施し離職防止に努めた。

今後も社会や業界のニーズに対応した教育目標となっているか常に意識し、より実践で応用できる教育となるよう努める

また、令和3年度に実施できなかった学生アンケートについては、実施に向けて検討を重ねていく。

③ 特記事項

特になし。

【授業・実習内容の充実】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・グループワークなど様々な授業方法を取り入れ学生が主体的に学べるよう支援したか。	4	③	2	1
・歯科医療現場の現状を把握し、現場の課題を学生に示すことができたか。	4	③	2	1
・臨床実習では、教科で修得した理論や技術を臨床の場で応用できるよう、臨床的スキルや態度について実習できたか。	4	③	2	1
・臨地実習では各施設の特色や利用者の特性を習得できる実習ができたか。	④	3	2	1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

引き続き、教科の学習内容と臨床・臨地実習施設での教育内容について、関係機関と協議、検討して、技術革新する歯科医療現場の技術や知識を講義等に取り入れるとともに、基礎的理論に基づいた実習ができるよう協力体制を維持していく。

③ 特記事項

校内での相互実習や模擬患者実習で臨床現場をイメージして取り組んでおり、校外での臨床・臨地実習がより実践的に行えるよう努めている。

また、校外実習後は必ず報告会を開催し、実習の振り返りだけでなく今後の課題を意識させることで、さらなる成長を促すよう努めている。

【学習成果】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・歯科衛生士国家試験の合格に向けた授業を実施できたか。	④	3	2	1

・地域歯科医療に貢献できる人材育成を視野に入れた教育と就職指導が実施できたか。	④ 3 2 1
・職員会議等を通じて学生の学習状態や就業希望等を共有し、教員全体が共通意識のもとに対応できたか。	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成の効果を把握し、学校の教育活動に活用しているか。	4 ③ 2 1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

卒業生の就業等については個々の相談体制を整えている。

少人数制を活かし、担任だけでなく教員全員が学生の学習状態を共有し、担当科目等での指導をしており、引き続き地域歯科医療に貢献できる人材育成に努める。

③ 特記事項

卒後1年目の卒業生を参集した就職報告会を開催し、就業状況や1年目の悩み等を把握する機会としている。また、就職を決めたきっかけや現在担っている業務、やりがい等を在校生に聴講させることで具体的な進路決定やキャリアビジョンに活用できるよう工夫をしている。

また、本校は創立53年を迎え、これまで全員が歯科衛生士国家試験に合格し卒業しており、引き続き全員の合格を目指し1年次から専門的職業教育を徹底していく。

(4) 学校生活支援

【生活指導、学生支援】

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
・学生の安全管理のための取組や指導がなされているか。	④ 3 2 1
・保護者からの支援体制や連携は図られているか。	④ 3 2 1
・挨拶の励行や身だしなみについてTPOに合わせた指導が実施できたか。	4 ③ 2 1

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

災害共済保険に引き続き加入し、学校生活や実習時に発生する災害等に対応できるようしている。

挨拶や身だしなみについて、実習等を通して常に医療機関に勤務する者としての自覚を促しており、引き続き、医療人としての社会的ルールの大切さについて指導していく。

③ 特記事項

保護者により構成する後援会から、空気清浄機を3台寄付していただき、実習や学生確保のためのイベント、式典の開催に活用した。